



環境経営レポート

対象期間（2024/4/1～2025/3/31）

黒部モビリティサービス株式会社

contents

- ① 会社概要
- ② 2025環境経営方針
- ③ 環境経営目標
- ④ 主要な環境活動計画の内容
- ⑤ 実施体制
- ⑥ 環境保全活動の取組結果【目標に対する取組み結果】
 - CO2排出量（電力・燃料、各グループ別）
 - 電力消費量
 - 燃料給油量
 - 廃棄物・産業廃棄物排出量
 - 水使用量
- ⑦ 環境保全活動の取組結果の評価
- ⑧ 代表者によるレビュー
- ⑨ 代表者による全体評価と見直し結果
- ⑩ 環境関連法規への違反、訴訟の有無
- ⑪ 2024環境経営方針

会 社 概 要

会社名 / 黒部モビリティサービス株式会社

本社 整備・石油グループ 〒938-0027 富山県黒部市中新484
交通グループ 〒938-8601 富山県黒部市吉田200

創業 / 1968年（昭和43年） 10月

代表者 / 代表取締役社長 内山洋一

従業員数 / 40名

事業内容 / 整備技術グループ 各種車両車検・点検・整備・販売
フォークリフト点検・整備・販売
石油販売グループ ガソリンスタンド業 燃料油・揮発油販売
交通グループ 特定旅客自動車運送、一般乗合旅客自動車運送

主要販売先 / YKK(株)、YKKAP(株)、一般個人ユーザー

関係会社 / YKKグループ

環境対象範囲 / 整備工場、石油スタンド、交通グループ

エコアクション21を取組むにあたり

当社は『YKKグループサステナビリティビジョン2050 気候変動への対応、資源の活用、水の持続的利用、自然との共生』をテーマにサービスや技術の提供を通して新しい価値を創造し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

環境経営方針

基本方針

黒部モビリティサービス(株)は「YKKグループサステナビリティビジョン2050」に基づき、未来の豊かな自然と生活を実現するために、さまざまなサービスや技更に更に術の提供を通して新しい価値を創造することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

行動指針

1. 環境関連法規及び事業関連法規を厳守します。
2. 活動により生じる環境負荷の低減及び資源の有効活用に努め、下記の環境目標を定め、定期的・持続的に点検、見直しを行い改善します。
 - ・電力使用量の削減（こまめな電源スイッチOFFと空調管理の徹底）
 - ・使用燃料（ガソリン、軽油灯油）の削減（エコドライブの徹底と配送・輸送効率アップ）
 - ・一般廃棄物の削減（紙使用量の削減、IT・デジタル化の推進）
 - ・水使用量の削減（洗車や融雪用に使用する際の節水対策）
 - ・環境対応商品の販売促進
 - ・化学物質の適正な管理
3. 当社で働くすべての従業員にこの環境経営方針の周知徹底を図ります。

2025年4月1日

黒部モビリティサービス(株) 代表取締役社長

内山 洋一



③ 2025年度 環境経営目標と計画

	項目	単位	基準年	4年間の目標			
			2019年 実績	2025年 目標	2026年 目標	2027年 目標	2028年 目標
	二酸化炭素排出量の削減	kg-co2	251.070	215.721	215.647	214.201	212.908
	電力の使用削減	kwh	128.922	118.000	118.000	118.000	118.000
	軽油量の削減	リットル	56.733	46.094	46.094	45.604	45.332
	ガソリン量の削減	リットル	10.459	9.774	9.742	9.710	9.410
	灯油量の削減	リットル	4.124	4.073	4.073	4.030	4.073
	産業廃棄物量の削減	t	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1
	一般廃棄物量の削減	kg	1.048	921	906	936	921
	水資源量の削減	m³	1.775	1.987	1.987	1.987	1.987
	環境対応商品の販売促進		7	9	9	9	9
	化学物質数量の把握と評価	回	7	2	2	2	2

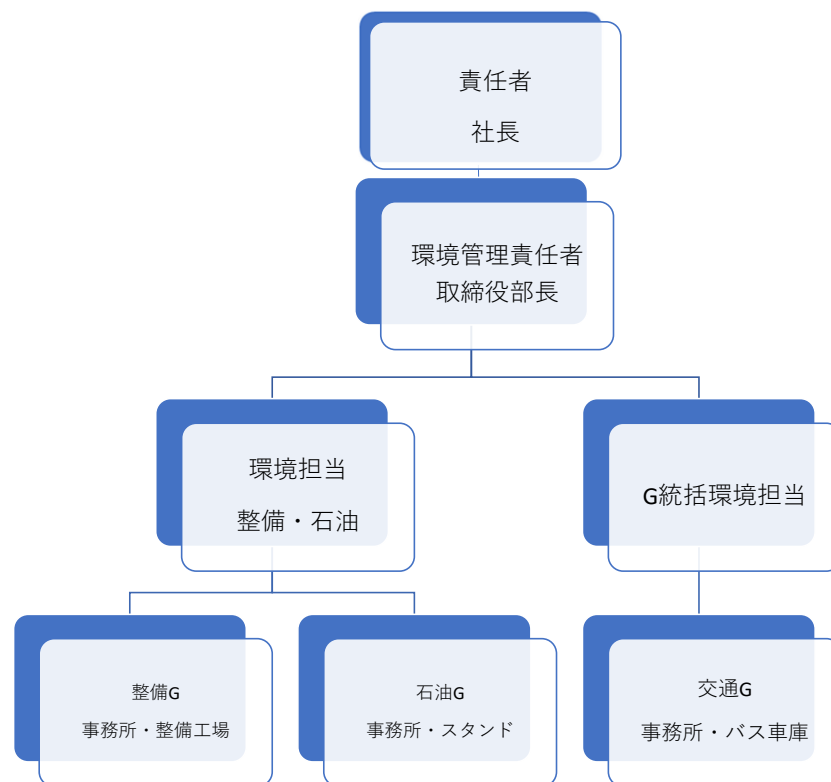
補足

- ・電力・・・2022年交通グループ3台、石油グループ1台エアコン入替えをし基準年の実績よりかなり下がってます。その他に待機電力の節電を各グループで取り組んでいます。
- ・燃料・・・2024年に交通グループはマイクロバス3台車両入替えをしました。燃費が上がり給油回数も減った。車両入替えを進めていく事とデジタルタコグラフを活用してアイドリングストップを数字化し目標を下げてます。
- ・産業廃棄物・・・整備グループで廃タイヤ、廃グリス 排出費がかかる物（売却物を除く）
- ・水資源・・・石油グループでの洗車キャンペーン等で多くの水を使いますが、各グループともに節水に務めて使用しています。
- ・環境対応商品の販売促進・・・トヨタ・ホンダ・日産・スズキ車、夏・冬タイヤ、オイル交換キャンペーンの回数。

④ 2025年度 主な活動計画とSDGsとの関係性

	SDGsとの関わり	3 すべての人に健康と福祉を	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう
YKK環境ビジョン2050	気候変動への対応			☆				☆		
	資源の活用						☆			
	水の持続的利用		☆						☆	
	科学物質								☆	☆
	自然との共生					☆			☆	☆
黒部MS										
環境目標	CO2の排出量	電力使用量の削減			☆			☆	☆	
		軽油使用量の削減			☆			☆	☆	
		ガソリン使用量の削減			☆			☆	☆	
		灯油使用量の削減			☆			☆	☆	
	廃棄物							☆		
	産業廃棄物							☆		
	水使用量			☆				☆		☆
	生産性向上				☆	☆				
色々な取組み	エコタイヤ・エコオイル販売促進				☆			☆	☆	
	環境対応車の販売促進				☆			☆	☆	
	各部署周辺の清掃活動						☆		☆	☆
	化学物質の適切な管理								☆	☆
	年次有給の取得向上		☆							

2025黒部モビリティサービス(株) 環境・（安全衛生）委員管理体制



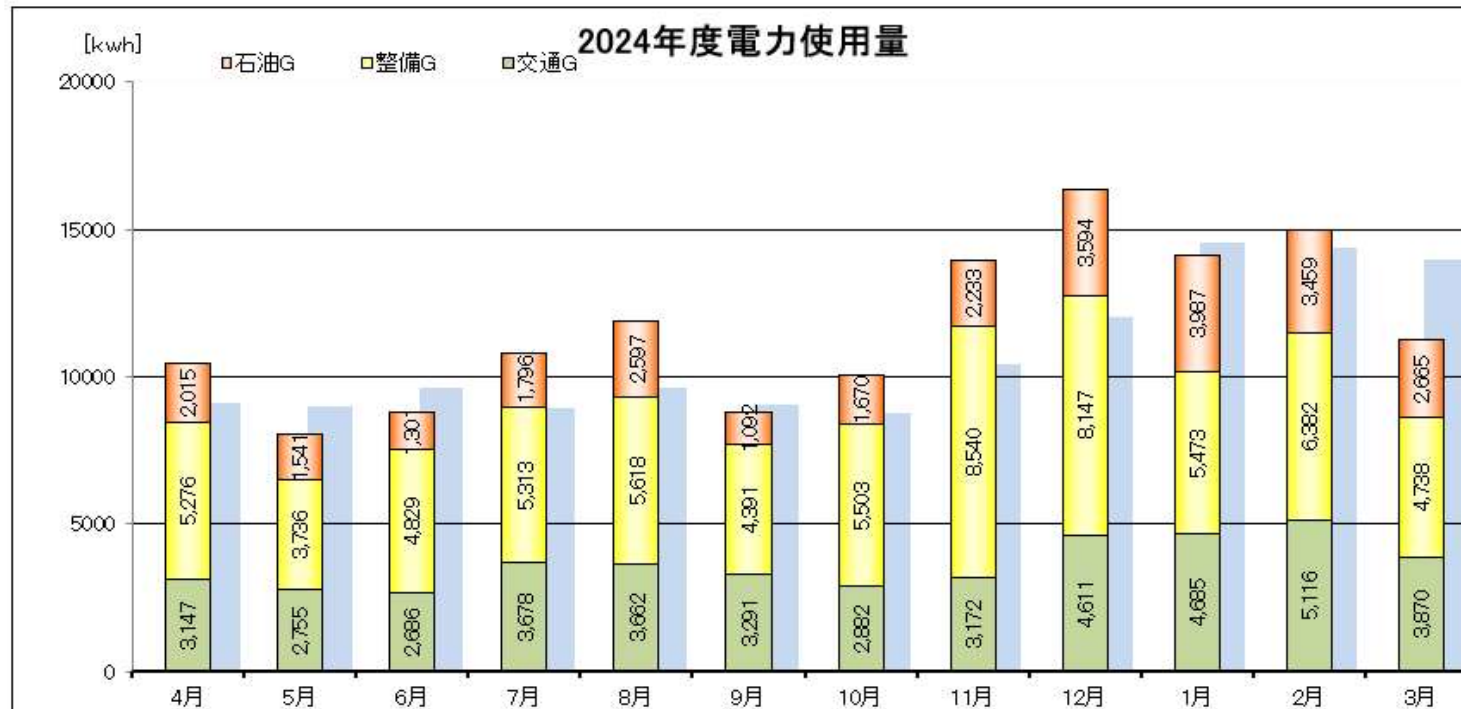
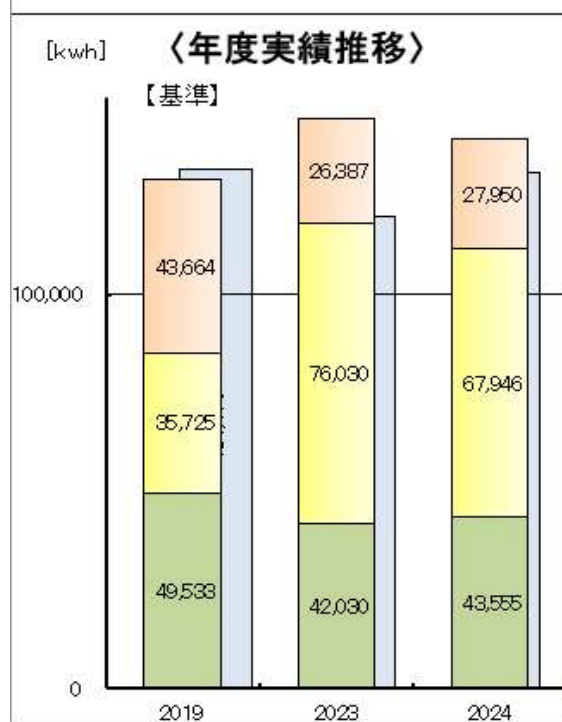
役 割

環境管理責任者 環境方針の周知。
環境全体の評価、見直し、承認。
EA21レポート承認。

環境担当者 EA21報告資料作成。
毎月各グループの各部門の環境目標、活動計画の実績報告。
法規制の厳守の徹底。緊急事態訓練の実施。

⑥環境保全活動の取組結果

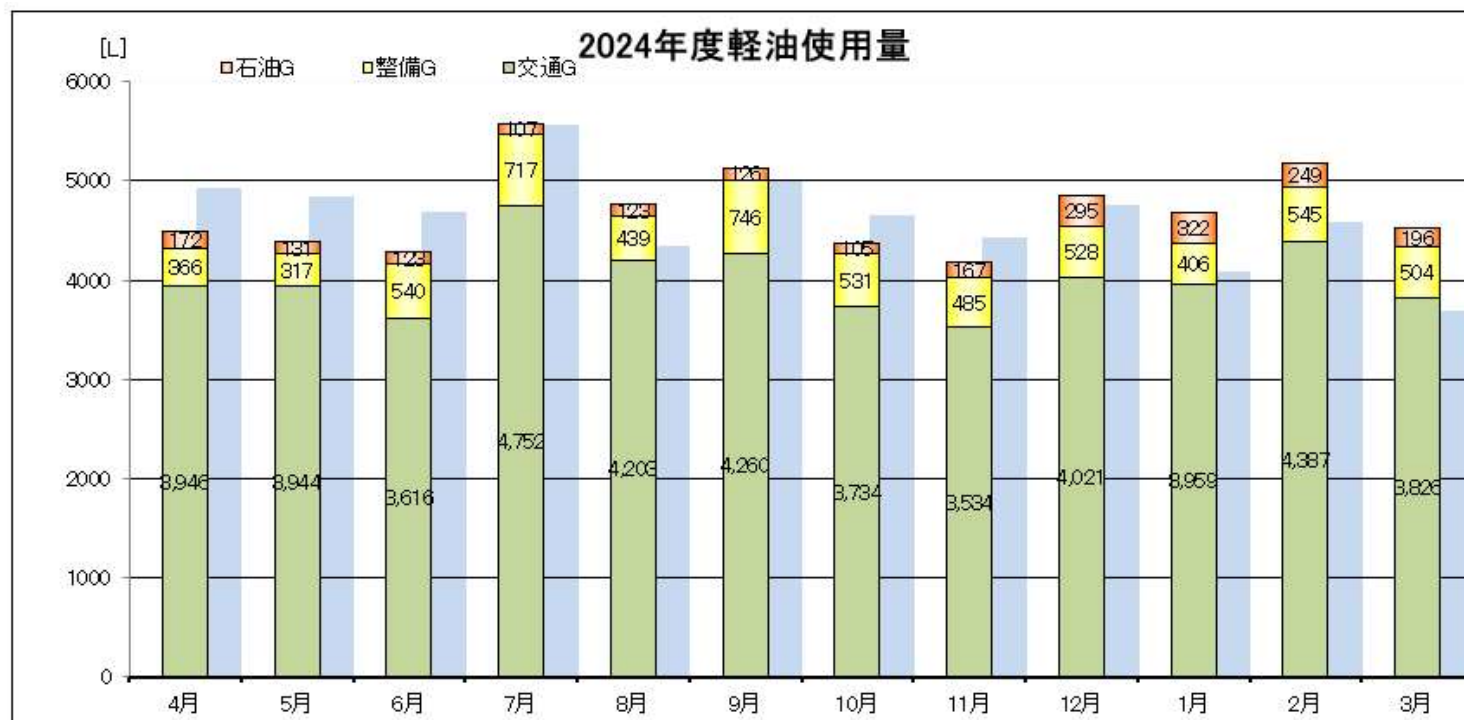
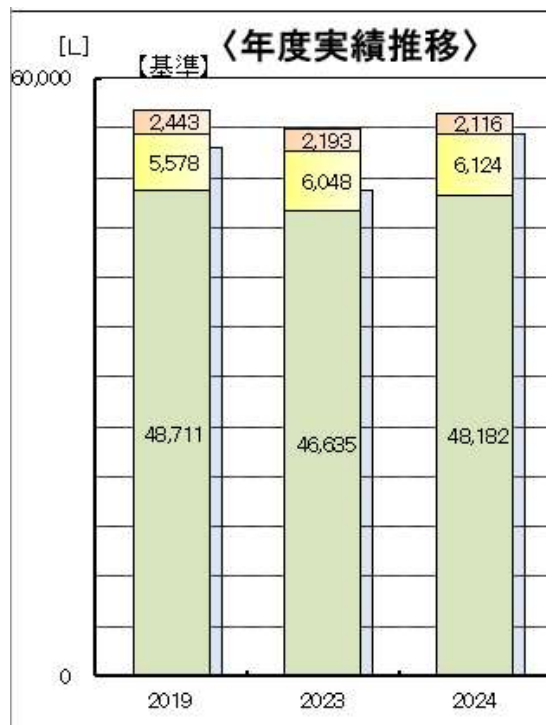
二酸化炭素削減 電力使用量



実績が139.451kwhで9089kwh計画を上回った。 11月・12月は石油スタンドで使用する水の汲み上げポンプの故障により計画を上回ったが年間通して計画に近い感じだったと思う。G全体で節電に取り組み、不使用時の休憩室、休憩時の整備工場等の消灯、エアコンの設定温度の徹底、電源タップを使用し待機電力のカットを実施しています。 猛暑や寒気で中々難しいが目標達成に向け取り組んでいきます。

⑥環境保全活動の取組結果

二酸化炭素削減 軽油使用量

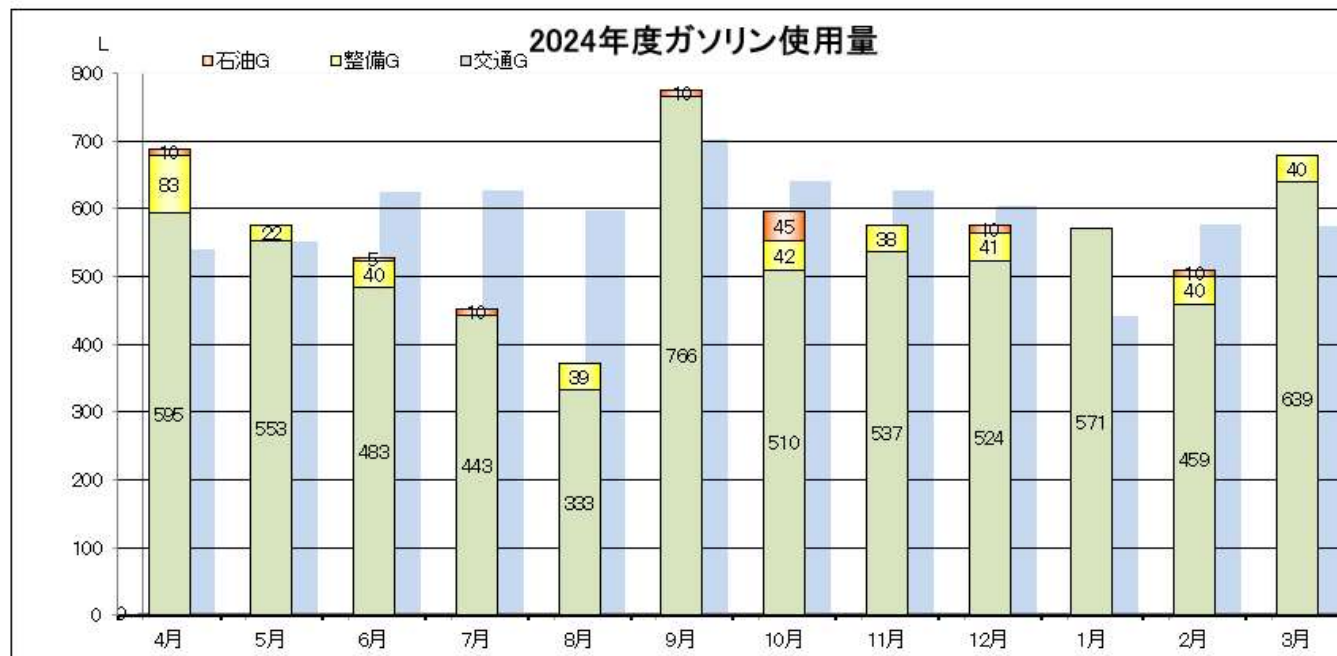


実績56.422ℓで1.105ℓで計画を上回った。 昨年度、交通Gで新型のマイクロバスを4月に1台、9月に2台、計3台入替えをし燃費向上、給油回数削減に繋がった。昨年度は若干計画を上回ったが今年度は昨年途中から入った新型車2台がフル稼働するので期待したい。

ドライブレコーダーを活用し急加速、アイドリング時間等のデーターを活用しドライバーに周知し日々の運行に取り組んでいます。

⑥環境保全活動の取組結果

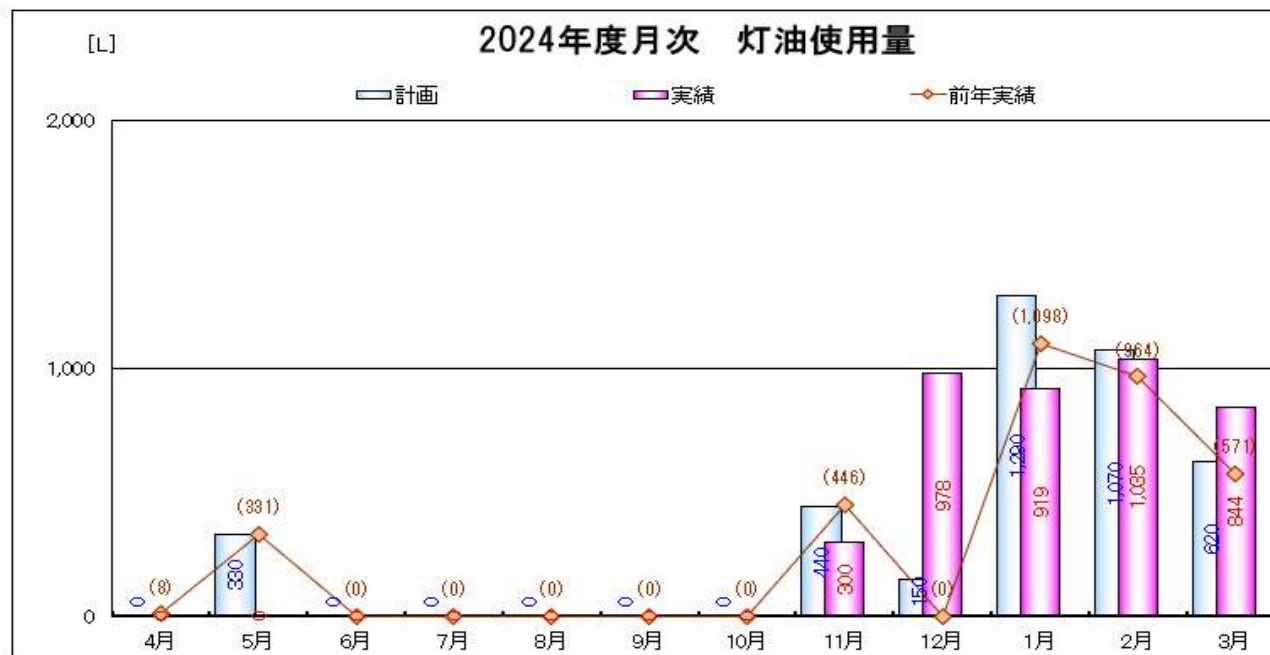
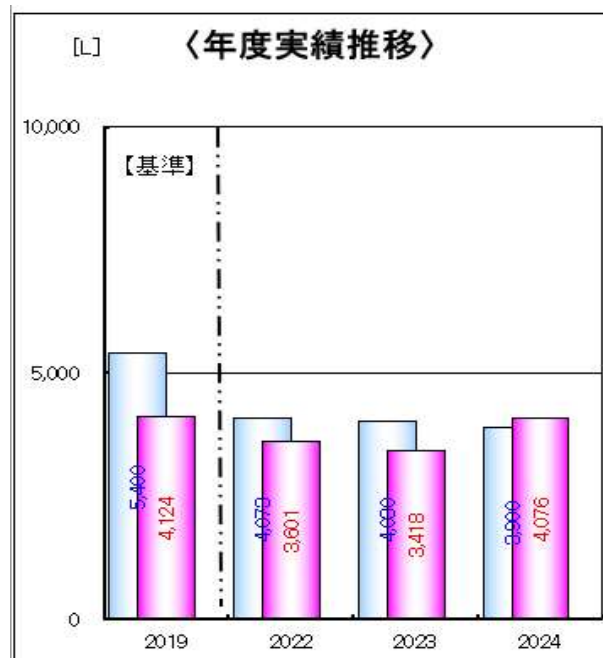
二酸化炭素削減 ガソリン使用量



実績6,898ℓで計画を182ℓ下回った。 交通Gでは来客送迎用のワゴン車の稼働がコロナ禍から減少しコロナ明けでも稼働が少ない。役員送迎依頼が予定よりも多かった。できるだけ待機時のアイドリングストップを心がけ燃費向上をに繋げたい。整備工場では車検手続きが電子化され陸運局への移動が大幅に減ったのが大きな要因になった。

⑥環境保全活動の取組結果

二酸化炭素削減 灯油使用量

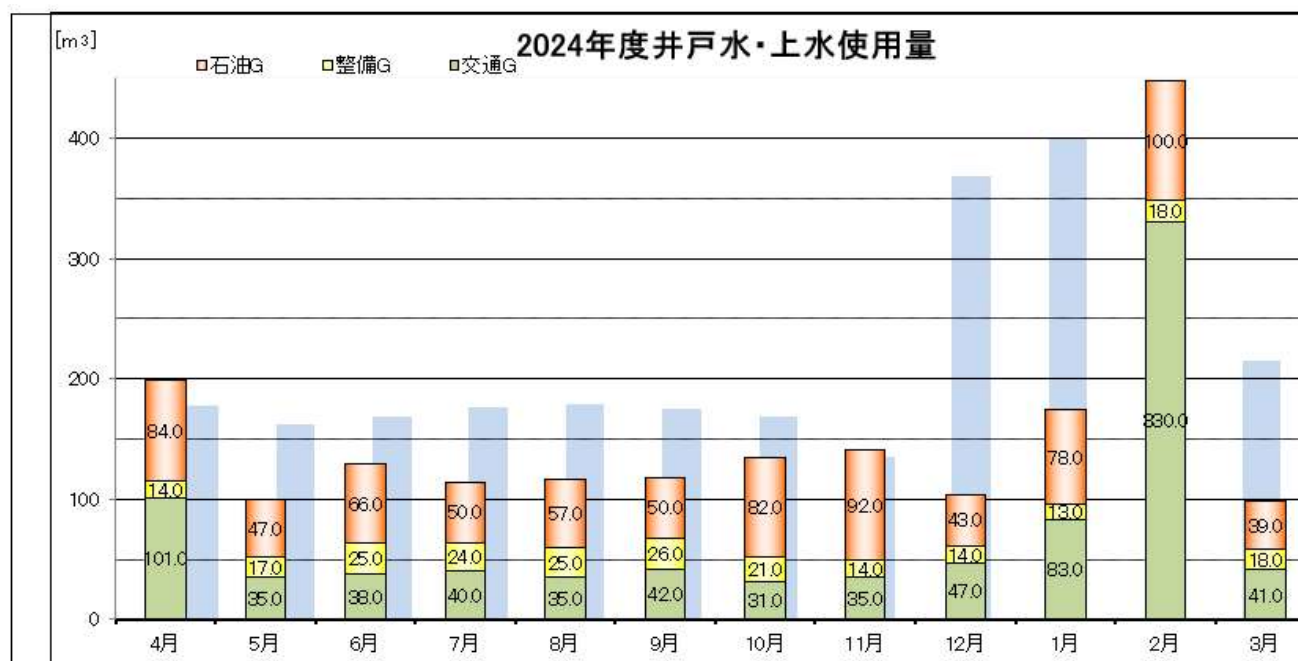
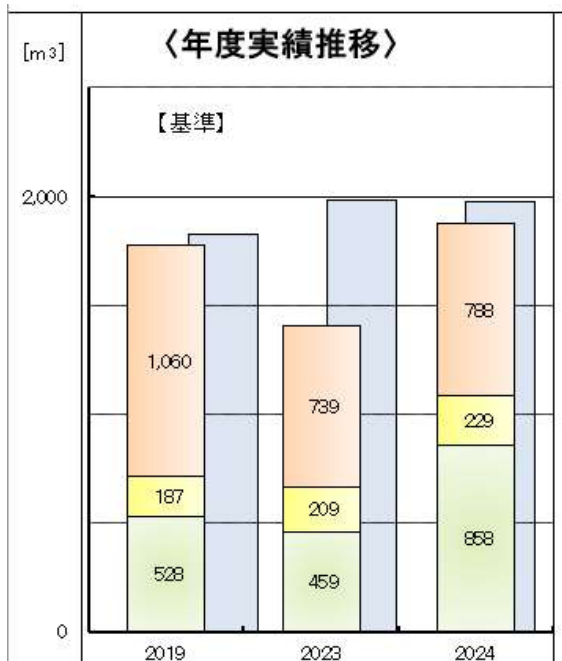


実績4076ℓで計画を176ℓ上回った。 12月の計画が低すぎた事で大幅な計画オーバーに見えるが、年間で見ると計画近くだったのでよかったと思う。今年度の課題として12月の計画の見直しをして目標達成に繋げていきたい。

主に整備Gで整備時の車の下部部分を乾かす為に大型ジェットヒーターを使用。整備台数や天候にも左右される。

⑥環境保全活動の取組結果

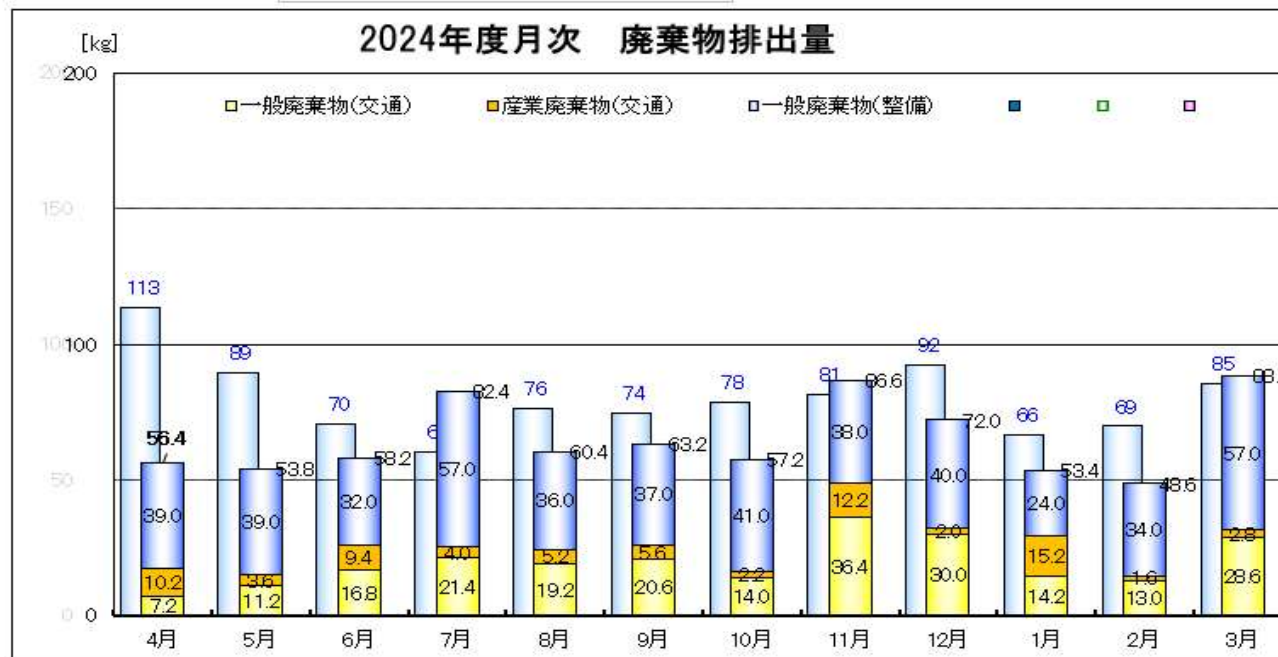
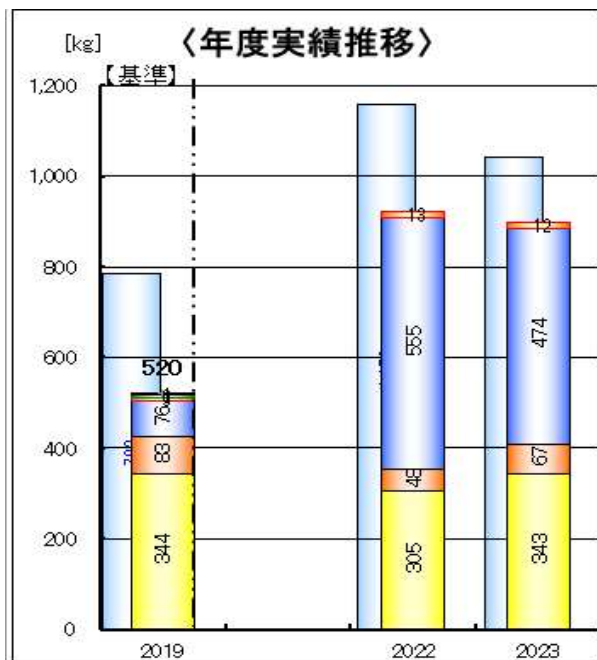
井戸水使用量



実績1875m³で計画を102下回った。 2月に2度強い寒波がはいり、水道管の凍結防止のため出しっ放しにした事で使用量が計画より大幅に増えたが、年間では計画内で目標達成できた。ホースの先に節水ノズルを付けたり、洗車時の出しっ放しを止め節水に心がけてます。 石油スタンドで洗車キャンペーンを年2回（4月、11月）行っている所以計画を若干オーバーした。

⑥環境保全活動の取組結果

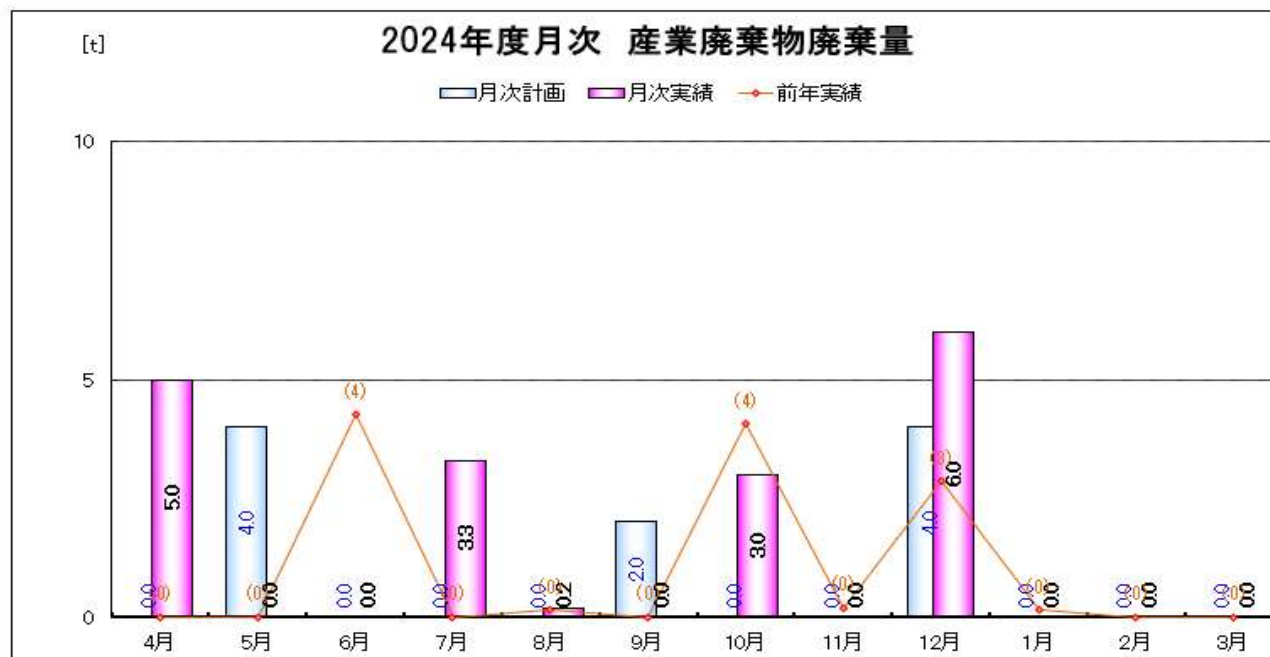
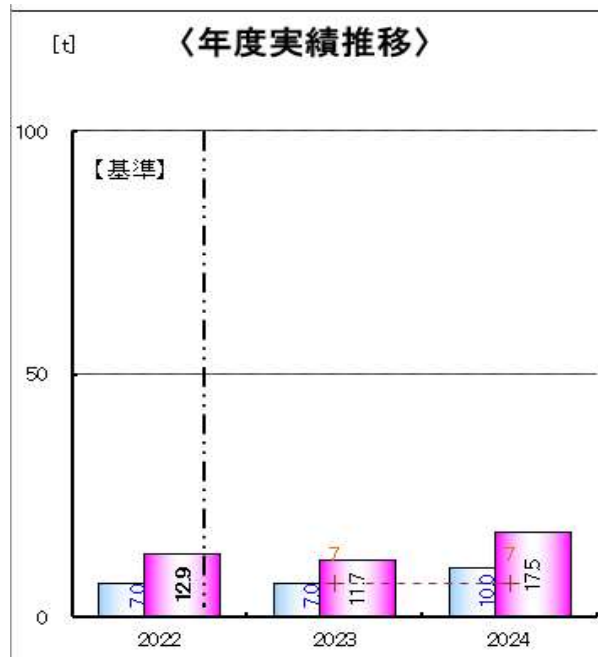
一般廃棄物排出量



実績780kgで計画を173kg下回った。グループ全体で業務以外の私物の昼食時や休憩時の飲食等などのゴミの排出を禁止にしました。

⑥環境保全活動の取組結果

産業廃棄物排出量



実績 18t で計画を 8t 上回った。整備Gで4月・10月～11月のタイヤ交換キャンペーン、7月～8月にオイル交換キャンペーンを実施。多くのお客様に来て頂きました。タイヤ商談・販売会で多くのお客様が購入し、タイヤ交換キャンペーンで新品タイヤに交換され廃タイヤが多く排出。オイル交換キャンペーンではオイルエレメントが多く排出した事が計画オーバーになった。

⑥環境保全活動の取組結果

二酸化炭素排出量



実績247,303kgで計画より7793kg上回った。井戸水くみ上げポンプの故障や猛暑、2度の寒波が発生したりイレギュラーな事があり電力のコントロールが難しい1年だった。燃料では、軽油・灯油はほぼ計画通りにいった。今後の課題としては燃料特に軽油から排出されるCO2をいかに抑えられるかだと思う。その為には1年通してアイドリングストップ活動を実施。老朽化した車両の入替えをしていき、CO2排出を抑えていく事が今後の課題です。

⑦・⑧ 環境保全活動の取組結果と評価・レビュー

項目	単位	基準年	2024年度			
		2019年	目標	実績	達成率	評価
CO2排出量削減	kg-co2	251,070	239,510	247,303	97%	☹
電力使用量	khw	128,922	130,362	139,451	93%	☹
軽油消費量	リットル	56,733	55,317	56,422	98%	☹
ガソリン消費量	リットル	10,459	7,080	6,898	103%	😊
灯油消費量	リットル	4,124	3,900	4,076	96%	☹
水消費量	m3	1,775	1,977	1,875	105%	😊
産業廃棄物	t	7	10.0	17.5	57%	☹
一般廃棄物	kg	1,048	953.4	780.6	122%	😊
環境対応商品の販売促進	回	7	9	9	100%	😊
化学物質数量の把握と評価	回	2	2	2	100%	😊

☆補足☆ 環境対応商品・・・ ①5月～6月トヨタ車 ②6月スズキの日 ③7月オイル祭り ④7月～8月ホンダ車 ⑤9月～10月スズキ車 ⑥11月～12月日産車 ⑦タイヤ商談会 ⑧1月～2月トヨタ車 ⑨プリズム洗車

経営層によるレビュー

Co2の排出量の多い、電力と軽油の使用量について、計画値を超過してしまったことは残念であるが、ただ、電力については、地下水を汲み上げるポンプの故障という突発的な事態が発生したためであり、それが無ければ十分計画内に収まっていたと思うし、そういったイレギュラーな事象があっても前年度よりも使用量を削減できたのは評価できる点である。軽油についても交通Gの業務請負量が増えれば、どうしても増加することではあるので、業務量が増える状況下においても、少しでも消費量を抑えることができるように、メンバーからアイディアを集めて、創意工夫を継続してってもらいたい。少しずつではあるが、データの管理方法も細分化できつつあり、徐々にではあるが、原因の究明が早期に行えるようになってきているのは大いに評価できる点であり、今後も推進してってもらいたい。

実施者	代表取締役社長 内山 洋一
実施日	2025/5/15
確認・評価した資料	
文書	確認
環境経営方針	○
環境経営目標	○
環境経営計画	○
環境関連法規等のまとめ	○
実施体制	○
緊急事態対応手順	○
取組に必要な手順書の見直し	○
環境経営レポート	○
教育計画と実績	○
環境への負荷の自己チェック	○
環境への取組の自己チェック	○
環境関連法規制等の順守状況確認	○
外部からの苦情・情報の記録	○
環境上の緊急事態の訓練記録	○
環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況と	○
不適合是正・予防処置報告書	○
内部監査報告書	
システムが有効に運用されているか（要求事項を満たしているか）	適
取組が適切に行われているか	適
E A 2 1 審査時の指導・推奨事項に対する対応がされているか	適
見直しの必要性	
環境経営方針	あり
環境経営目標	あり
環境経営計画	なし
実施体制（システム）	なし
その他	なし

見直し・指示具体的内容

システムは有効に運用されており、環境担当者の取り組みに対する意識も向上している点は

今まで以上に取り組みが強化されてきた要因であり、今後の推進にあたって大変心強く思わ

れる。更に持続可能な社会の実現に向けて、取り組みを強化していくためには、社員一人ひとりが当事者意識を持って主体的に取り組むことが必要であり、環境教育も含めて意識づ

⑩

環境関連法規の厳守状況

環境関連法規への違反はありませんでした。

また、関係機関からの違反等の指摘及び環境に関する苦情等の発生ありませんでした。社内巡視を計画的に行い必要に応じ変更、改善を行っております。

法規制	遵守状況
フロン排出抑制法	○
水質汚濁防止法	○
浄化槽法	○
水道法	○
下水道法	○
黒部市下水条例	○
黒部市公害防止条例	○
土壤汚染対策法	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
黒部市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例	○
	○
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	○
特定化学物質排出量の把握等及び管理・改善の促進に関する法律	○
消防法	○
黒部市火災予防条例	○
労働安全衛生活動法	○
計量法	○

黒部モビリティサービス株式会社 環境経営方針

基本方針

黒部モビリティサービス(株)は『YKKサステナビリティビジョン2050』に基づき、未来の豊かな自然と生活を実現するために、さまざまなサービスや技術の提供を通して新しい価値を創造することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

行動指針

1. 環境関連法規及び事業関連法規を遵守します。
2. 活動により生じる環境負荷の低減及び資源の有効活用に努め、下記の環境目標を定め、定期的、継続的に点検・見直しを行い改善します。

- ・電力使用量の削減(こまめな電源スイッチOFFと空調温度管理の徹底)
- ・使用燃料(ガソリン、軽油、灯油)の削減(エコドライブの徹底と配送・輸送効率アップ)
- ・一般廃棄物の削減(紙使用量の削減、IT・デジタル化の推進)
- ・廃棄物排出量の削減(分別回収の徹底、再資源化率の向上)
- ・水使用量の削減(洗車や融雪用に使用する際の節水対策)
- ・環境対応商品の販売促進
- ・化学物質の適正な管理

3. 当社で働くすべての従業員にこの環境方針の周知徹底を図ります。

2024年4月1日

黒部モビリティサービス(株) 代表取締役社長

内山 洋一

